

氏 名 富田 紘央 (トミタ ヒロナカ)  
本 籍 東京都  
学位の種類 博士(学術)  
学位の番号 博甲第97号  
学位授与の日付 2021年3月15日  
学位授与の要件 学位規則第4条第1項該当  
学位論文題目 日本、タイ王国の大学間交流への提言

論文審査委員 (主査) 桜美林大学教授 田 中 義 郎  
(副査) 桜美林大学教授 小 林 雅 之  
桜美林大学教授 畑 山 浩 昭  
サイアム大学(タイ王国)大学学長 Pornchai Mongkhonvanit

## 論文審査報告書

### 論文目次

目次	a
図表目次	e
第1章 はじめに	1
1.1 研究の背景	1
1.2 研究の目的	3
1.3 研究の独自性	3

1.4	研究の意義	3
1.5	研究の方法	3
1.5.1	文献調査	3
1.5.2	インタビュー調査	4
1.5.3	アンケート調査	4
1.6	章の構成	4
1.7	日タイ大学間交流の現状図	5
	注	
第2章	先行研究	7
第1節	タイ高等教育の概観	7
1.	タイの高等教育の歴史概要	7
2.	タイの教育制度と教育課程	9
3.	タイの高等教育機関が抱える課題	9
第2節	日本への留学に関する状況（高等教育機関）	10
1.	アジアからの日本留学	10
2.	日本からのアセアン各国への留学	11
第3節	オーストラリアと日本、オーストラリアとタイの大学間交流について	12
第4節	教育面におけるタイと中国の協力関係	13
第5節	日本における今後の留学生政策について	14
	注	
第3章	日タイ両国間の留学状況と両国の留学生政策	16
第1節	日タイ両国間の留学状況	16
1.	日本人のタイ留学について	16
2.	タイ人の日本留学について	18
2.1	太平洋戦争終結前	18
2.2	太平洋戦争終結後から西暦2000年頃まで	19
2.3	現在の状況	20
第2節	日タイ両国の留学生政策について	22
1.	日本の留学生政策について	22
1.1	留学生の日本への受入れ政策	22
1.2	日本人学生の海外留学促進政策	26
1.3	コロナ禍における新たな国際交流政策	29
2.	タイの留学生政策について	30
2.1	留学生政策について	30

2.2	タイ政府奨学金について	31
3.	タイで行われている日タイ両国による人材育成政策	33
4.	中等教育機関レベルでの交流	33
第3節	小括	34
	注	
第4章	日タイ大学間連携の現状と課題	37
第1節	日タイ大学間連携の現状	37
1.	大学間協定数	37
2.	協定内容	38
2.1	学生の交流	39
2.2	教員、研究者の派遣、研修、その他の交流	40
2.3	共同研究の実施	42
2.4	単位互換	43
2.5	事務職員の派遣、研修、その他の交流	45
2.6	ダブル・ディグリー	46
2.7	ジョイント・ディグリー	48
3.	奨学金制度数	49
3.1	締結先大学の学生の受入れに伴う奨学金の支給	50
3.2	学生派遣・受入れに係る授業料の相互不徴収に関する協定数	51
4.	海外の拠点数	53
第2節	日タイの大学間交流について	55
1.	タイの大学へのインタビュー調査の概要	56
1.1	インタビュー先の大学情報	56
1.2	インタビューの質問内容とその回答	57
第3節	小括	64
	注	
第5章	日タイ学生交流の実態	67
第1節	アンケート調査の目的	67
第2節	アンケート調査対象者	67
第3節	アンケート調査の時期	67
第4節	アンケート調査方法	68
第5節	アンケート結果分析方法	68
第6節	タイの大学に所属しているタイ人学生のアンケート調査結果	68
1.	第1部 アンケート回答者に関する質問	68

2. 第2部 日タイ大学間交流に関する質問	69
2.1 日タイ大学間交流の有無を知っているかと日本人学生との交流活動参加への興味の有無について	69
2.2 日本への留学について	75
2.3 日本人交換留学生在がタイの大学に来た場合	92
第7節 日本の大学に所属しているタイ人学生へのアンケート調査結果	102
1. 第1部 アンケート回答者に関する質問	103
2. 第2部 日タイ大学間の学生交流に関する質問	103
第8節 小括	106
注	
第6章 総括と今後の研究課題	110
第1節 総括	110
1. 文献調査	110
2. インタビュー調査	111
3. アンケート調査	112
4. モデルの提言	113
4.1 日本の大学が行うべき施策	113
4.2 タイの大学が行うべき施策	114
4.3 日タイの大学が協力して行うべき施策	114
第2節 今後の研究課題	116
参考文献	117
謝辞	122
付属資料	
1. インタビュー調査質問内容	123
2. アンケート調査質問内容	124
2.1 タイの大学に所属しているタイ人学生用アンケート・397名	124
2.2 日本の大学に所属しているタイ人学生用アンケート・17名	132
3. t検定の結果	141
4. 重回帰分析の結果	160

## 論文要旨

本研究は、日タイ大学間交流の現状や課題を把握し、タイ側からの目線で、今後の大学間交流への提言を行うことを目的としている。研究を行っていく段階として、文献調査、インタビュー調査、アンケート調査の3つを行い、その調査結果から、日タイ大学間交流を更に活発化していこうと考えた場合、日タイの大学が行うべき施策を下記に挙げる。まず、日本の大学が行うべき施策であるが、1 博士課程に留学を希望するタイ人学生の積極的招致、2 タイの地方大学との交流、3 中長期のプログラムの拡充となる。続いて、タイの大学が行うべき施策とは、1 短期プログラムの拡充、2 協定数の整理となる。最後に、日タイの大学が協力して行うべき施策であるが、1 職員交流の拡充、2 広報活動の強化、3 外部資金獲得となる。

本調査から、日タイ大学間交流の現状、課題が見えてきた。日タイの大学として、両国間の大学間交流を重視する大学も数多くある。また、タイだけでなく、アセアン各国との大学間交流も今後は活性化してくることが考えられるが、留学希望者の考えや要望も多様化していることから、日本の大学としても、様々なプログラムを準備し、受入れ体制を整えていかなければならない。そういったプログラムの企画、運営、管理を行うことができる人材育成も必要だ。教員の共同研究、職員交流、学生教育のための交流など、あらゆるレベルでの包括的な交流を推進していくことが、様々な課題を克服し、継続性のある、裾野の広い活動へと繋がっていく。日本の大学のみならず、欧米やアジア各国の大学も、大学間交流において、様々なプログラムを開発し、積極的に行動を起こしている。また、中所得国の罫という状況から脱出を図る東南アジア諸国、資源供給国から技術立国への脱皮を図る中東各国や中央アジア各国、今後大きな経済発展が見込めるアフリカ諸国など、今後、日本との交流拡大が見込まれる国々との連携も強化していかなければならない。母国では得ることができない経験、教育を留学生は望んでいる。日本の大学としても、このような国々の人材育成に寄与するために行動を起こしていく必要があるだろう。本研究は、タイ人の目線で日タイの大学間交流の現状を知るという意味で意義のある研究であったと考える。しかし、インタビュー調査やアンケート調査の数には限界があり、本調査からは見つけることができなかった課題や意見も多数あることだろう。また、アンケート調査の対象者や交流の分野を変えるなどして、本研究とは違った視点で調査を行うことも可能である。今後も日タイの大学間交流に関する様々な事例に注目し、調査研究を行っていきたいと考える。

以下、1.研究の目的、2.研究の独自性、3.研究の意義、4.研究の方法である。

1. 研究の目的： 本研究は、タイの大学へのインタビュー調査や、タイ人学生へのアンケート調査を通し、日本とタイの大学間交流活動の現状や課題を明らかにし、また、実際に交流活動に参加しているタイ人学生が、交流活動に対して、どういった考えや期待、問

題を抱えているのかを把握することである。今回の調査結果から、今後の日タイ両国の大学間交流活動への提言をまとめることにより、日タイ大学間の相互理解が進み、大学間交流の裾野を広げていくことを目的とする。

2. 研究の独自性：日本留学の問題点などに対して、受入れ国である日本側の立場で議論されることが多く、送り出し国側から見た日本留学という視点については、あまり議論されていないという指摘がある。そういった指摘に対し、本研究では、タイでのインタビュー調査、アンケート調査を元に、タイ人の目線から見た日タイ大学間交流の現状と課題を把握することを試みる。タイ側の意見を踏まえた上で、両国の大学間交流への提言を行うということは新しい視点と言える。
3. 研究の意義：本研究の成果によって、より多くの日本の高等教育関係者がタイ側の考えを知る機会となり、相互の理解がさらに深まっていくことを期待する。また、両国の大学間の情報共有が進み、更に活発な交流の発展に寄与することを望む。本研究が両国の人的交流の裾野を広げる一助になることができると考える。
4. 研究の方法：本研究の方法であるが、文献調査、インタビュー調査、アンケート調査の3つを柱として研究を進めていく。文献調査であるが、日タイ両国の高等教育政策や留学生政策に関する資料や文部科学省の調査をもとに、両国の人的交流の歴史や交流実績の具体的な数字を把握する。インタビュー調査は、タイの7つの大学に対して、半構造化インタビューの手法を用い、日タイ大学間交流活動の実態や課題をタイの大学の目線で把握することを目的として実施する。アンケート調査であるが、日本の大学に所属しているタイ人学生とタイの大学に所属しているタイ人学生の両方を対象とし、日タイ大学間の学生交流活動に関するアンケート調査を行う。タイ人学生が、日本への交換留学や日本人学生との交流活動についてどういった考えを持ち、課題を抱えているのかを調査し、タイ人学生の学生交流活動に関するニーズを探ることを目的とする。

## 論文審査要旨

論文の水準:①その分野の現在の研究水準に達しているか、②将来、自立して研究活動ができる研究能力を示しているか。

① 留学生の実態や留学生政策に関しては、これまでも多くの研究がなされてきた。タイの留学生に関しても、モノグラフ的研究論文は複数刊行されている。しかし、本研究のような歴史、政策分析、統計、アンケート調査を用いた複数のアプローチからする包括的な研究はない。この点で、本研究は高く評価される。

歴史と政策分析と統計分析は、先行研究を吟味し、丁寧に分析がなされている。アンケート調査は、タイの大学にいるタイ人学生と日本の大学にいるタイ人学生の2つの調査がなされている点も、複眼的なアプローチとして評価できる。ただし、コロナウィルスの問題で、

日本の大学にいるタイ人学生について、十分なサンプル数を確保できず2つの調査について同じ方法で分析できなかった点は惜しまれるが、その点を考慮しても現在のこの分野の研究水準を十分超えていると評価できる。

② 本研究が示した先行研究の文献や政策文書、統計資料の分析能力や、多変量解析を用いた調査の統計分析の能力は、著者が将来自立して研究活動ができることを十分に示している。著者は既に日本語論文だけでなく、タイ語論文も刊行しており、さらに日本及びタイにおいて、この分野での研究の進捗が期待される。

## 口頭審査要旨

口頭審査では、以下の4視点で、当該研究の具体的プロセスを中心に、審査を行った。結果は、以下の通りである

1.オリジナリティ	2.研究領域への 貢献	3.論理的ー貫性	4.文章や図表類の 明快さ
評価：期待水準を 満たしている	評価：期待水準を 満たしている	評価：期待水準を 満たしている	評価：期待水準を 満たしている

本研究の主な目的は達成されている。作業で使用された方法論は適切である。タイで勉強しているタイ人学生やすでに日本で勉強している学生からの調査回答から収集されたデータも十分に適切である。さらに、この研究は、著者がタイと日本の両方での国際教育活動に関する彼の仕事の経験から得たいくつかの洞察も結合している。すべての貢献は確かな理論的根拠に基づいており、徹底的な評価を通じて証明されている。この研究は、教育機関がタイと日本の留学生と交換留学生の数を増やすための戦略を立てるのに役立つ。結論として、論文はよく提示され、よく整理されている。それは博士課程での期待される水準を満たしている。著者は、確かな研究プロセスを実行し、信頼できる結果を達成する彼の能力を証明した。

日本からタイへの留学や国際交流に関する情報は多いが、タイから日本への留学や国際交流については、未知のことが多く、その意味ではこの研究はかなり貴重である。特に、タイから日本に留学する学生たちの個人レベルの目的や実態を、大学レベル、国家レベルのコンテキストの中で開設し、その上で、今後の交流モデルを提示しているのは価値が高い。今後は、文系や理系の相違に応じた細かい交流モデルも期待できるので、継続的な研究を期待したい。